# DAIDO CAMPUS

巻頭特集/大同工大、現代GPに採択! 運転中のハンズフリー実験、マスコミの取材攻勢

50号記念特集!

:大同工大、海外へ飛翔 :歴代の表紙で見る大同工大の発展

学生の活躍 レーシングカート部優勝!

中日新聞との共同事業:夏休み中部環境マップ

アメリカ短期留学と

オレゴン大学、オレゴン州立大学との提携周年記念

元気印の卒業生 ASO-OFFICE 中山則和氏

ひそかなグルメスポット 味波(あじなみ)

トコトン先生大活躍/就職トピックス

大同工大を取材して:週刊エコノミスト金山記者

開かれた大学/巻末トピックス

大同工大キャンパス **2004.11** 





## 大同工大、『現代的教育ニーズ取組 支援プログラム(現代GP)』に採択さる!

学生が主役、大学・地域・産業が参加する 「工住混合地域の街並形成へのデザイン提案」

推進責任者:建築学科 泰教授





朝日新聞 / 9.26



読売新聞 / 9.25

#### 採択は狭き門

9月24日、文部科学省から歓喜の連絡が入った。本学が 申請していた『現代GP』に採択されたという一報。翌日の 新聞には一斉に採択された各大学のプランが紹介された。

「現代GP」とは、文部科学省が全国の大学を対象に、優 れた研究実績、教育実績、現代的教育について支援する3 つの取組のうち、今年が初年度を迎える第3の支援制度。5 つのテーマで大学の教育プランを選定し支援する。今年 の「現代GP」には、全国各大学から559件の申請が寄せら れた。その中から採択されたのは86件。採択率は15.4%で、 私立大学のそれは12%の狭き門。大同工大のプランが採 択されたのはまさに快挙。

#### 大同工大の「工住混合地域の街並形成へ のデザイン提案」とは

教育プロジェクトは、建築学科笠嶋先生が担当し、すでに 新聞4社とNHK総合テレビで報道された「工場と住宅の 共生のための街並提案」を元に、工場と住居が混在する地 域における街並デザインを学生が提案、それを大学、地域、 産業界の有識者が批評するという体験提案型教育プログ ラム。本学では、建築学科(笠嶋泰教授、萩原伸幸助教授) 電気電子工学科(佐藤義久教授),情報学科(横山弥生助 教授 ) 化学教室(酒井陽一教授) 創造製作センターが参画。 本年度は、工場から駅、ストリートへと提案領域を広げ、建 築廃材を使ったベンチやデッキも製作する。

#### 文部科学省の選定理由は?

文部科学省の文書によれば、「工住混合地域での大学立 地を生かし、工場と住宅の共生のあり方という現代的課題 を授業課題としてとりあげ、地域・産業界の有識者も参加 する実践的教育であり、次代を担う人材育成が可能と評価 できる。同時に地域に対する情報発信としても期待される」 と述べている。

文字通り、本学の立地を生かした地域貢献活動として今 後の成果が期待される。

#### 本教育プロジェクトは、すでにNHK総合TVで放映されました。



現場で学生たちに指示を与える笠嶋泰教授 2004.6.10:30両日放送



インタビューを受ける樋口さん(01A)

# 「自動車運転中の携帯、ハンズフリー使用実験」発表に、マスコミの取材殺到!







手前 川下君、右奥 菰方君

機械工学科 鈴木 桂輔 助教授

## 「自動車運転中の携帯、ハンズフリー使用実験」発表に、マスコミの取材殺到!

中日新聞第1面記事になったことから始まった!

10月4日中日新聞朝刊の第1面に、「ハンズフリーでも危険」との見出しで、鈴木先生の運転中の携帯電話とハンズフリーを使用する場合、運転手の視野や危険予知能力が一定程度落ちることを示す実験結果の記事が掲載された。

その日から、テレビ局、新聞社の取材依頼が殺到。東京の日本テレビやフジテレビ、テレビ東京、名古屋のCBC、東海テレビ、メーテレ、中京テレビ、テレビ愛知、NHK、それに愛知県警までが取材に訪れた。鈴木先生はそのたびに学生諸君とともに取材に追われた。11月1日の「携帯電話かけながらの運転は罰金刑適用」を盛り込んだ新道路交通法施行を前に、タイムリーな実験結果発表となったからでもある。

#### 実験のあらまし:NASAの実験方法を応用

鈴木先生の実験室に本物の自動車を持ち込み、運転席から 道路と先行車が走る画面を見て実際走行のように運転する。 その間に自動車の左右180度に15度毎に設置してある赤い 発光ダイオードランプを点灯し、運転者は認知したらハンドル の赤ボタンを押す。携帯電話、及びハンズフリーを扱う場合は、 ランプ認識のほかに3秒毎に電話から聞こえてくる1桁の数字 の合計数の一桁数をオペレーターに返答するというNASA で採用されている心理負荷をかける実験方法を取り入れた。 このアイデアが先生の実験を独創的にした。

#### 新道路交通法で処罰対象から外されたハン ズフリーも万全ではない!

先生は24人の被験者のデータから、携帯電話はもちろん、 新道路交通法では罰則の対象とならなかったハンズフリーで も決して安心ではないと警鐘を鳴らした。この点がマスコミ に注目されて、取材殺到となったわけ。

先生は10月23日、日本人間工学会東海支部研究大会でもこの実験結果を発表し、会場から注目を集めていた。

#### この実験を支えたのが二人の卒研生

先行車が走るCGシミュレーション画像を制作したのが川 下祐志郎君、実験時のランプ操作が菰方豪昭君(いずれも01M)。 実験に、取材対応に大車輪の活躍だった。







NHK総合テレビ

#### 50号記念特別企画 大同工大、海外へ飛翔!

## 大学院 機械工学専攻 灌本典昭君、 アメリカ実験力学会主催の 第10回国際会議で、英語で研究発表!

6月7日から10日まで4日間アメリカカリフォルニア州コスタメサ市 で開催されたSEM X International Congress(米国実験力学会主 催の第10回国際会議)で、瀧本典昭君(03MM)が、6月10日英語で研 究発表した。

タイトルは" Estimation of dynamic fracture toughness from circumferentially notched round-bar specimens "((円 周切欠付き丸棒試験片による動的破壊靭性評価)。質疑応答を含め 20分の発表だった。講演内容には興味を示した研究者もいて、来年オー ストリアで開催される衝撃関連の国際会議への出席を要請する激励 のコメントもあった.

昨年瀧本君が機械学会北海道支部講演会で発表したとき、アメリカ で発表しないかと声がかかった。社会に出れば海外との関係は否が応 でも求められる、それなら大学院生のうちにと挑戦を決めた。

発表でははじめ上がってしまった。無理もない、初めての海外旅行だっ た。でも「悔しくてもう一度やってみたい」と思っている。指導教授の 和田均先生は、「とにかく何にでも向かっていく姿勢がいい」と目を細 める。「これだと思うことを自分で捉え、間違ってもいいから自分でつ めろ!」と後輩へのエールも飛び出した。



## 大学院 機械工学専攻 加藤貴信君、 イタリアで開催されたヨーロッパ 実験力学会で、英語で研究発表!

8月29日から9月2日まで、イタリアで開催された4年に1回開催のIC ME12(International Conference on Experimental Mechanics)で、加藤貴信君(03MM)が、8月30日英語で研究発表した。

タイトルは、" An Application of Computer Image-Processing to Nickel Foil Strain Gauge Measurement でニッケル箔ひ ずみ計ゲージ法へのコンピュータ画像処理の適用)。英語で15分発表、 10分間の質疑応答だった。終わった時はほっとしたと同時に、英語に 強くなってもう一度発表したいと思った。指導教授の杉浦正勝先生に よれば、就職することになった金星工業でこの経験を報告したら、「入 社2年目にアメリカで研究発表しなさい」と同社がうれしい取り計らい をしてくれたとか。加藤君は早くもファイトを燃やしている。





## 長期留学生 大槻寿史君( OOE ), ロスで奮闘中!

アメリカオレゴン大学への短期留学に参加してから、英語と留学に 目覚めた。親を説得、お金を工面してもらって大学を休学、単身ロスに わたり、LACC(Los Angels Community College)に。

英語に自信があったわけではない。ツテがあったわけでもない。入 学手続きから戸惑った。クラスではうさんくさいアジア人と見られた。 電気の授業は英語がわからなくても大同工大で授業を受けていたの で簡単だった。クラスメートが質問に来た。友達ができた。

空き缶広いのアルバイトに、古着を買って日本人向けのネットセー ルスで生活費を稼いだ。住居はジャグジー、ジム、プール、サウナ付き、 家賃月額14万の2LDK、を3人でシェア。

この夏久しぶりに日本に帰って友人に会ったら、「顔変わったねー」 と言われたそうだ。アメリカで孤軍奮闘した顔は、したたかに見えた。 あと12単位で卒業できるそうで、来年3月までロスでの生活が続き、4 月からは大同丁大へ復帰する予定。



## 機械工学科 堀美知郎教授研究室、日本から欧米へ、先生と学生東奔西走!

燃料電池の権威・堀先生が、世界のトップ企業を精力的に訪ね、プレゼンテーションや共同研究の提携を進めている。

今年の夏休みには、大学院・吉川裕介君(03MM)とともにアメリカへ飛び、世界一の自動車メーカーGM(ゼネラルモーター社)とゴアテックス社を訪問してプレゼンテーションを行った。

10月には、燃料電池ラボの松浦研究員とともにイギリス・マンチェスターの世界的企業・イネオス社を訪問。日本での燃料電池共同研究プロジェクトへの参加を提案し、参加する確約を得た。

また10月13日の朝日新聞で紹介されたように、三重県で進む燃料電池研究センターで指導的な役割を担うなど、益々多忙を極めそうだ。



イギリス・イネオス社正門で。同社スタッフと堀先生 松浦研究員

## 都市環境デザイン学科事口壽男教授、舟渡悦夫教授、木全博聖講師、大同工大留学生が教員を務める中国・河海大学と交流を深める!

中国、南京にある河海大学(中国の約1000校の国立大学で40番目のランク、教育研究重点大学指定)の土木工程学部に、吉 伯海助教授がいる。 吉先生は元大同工大留学生、事口先生の指導で修士号を獲得した。このほど都市環境デザイン学科に同大学から、中国に於ける大学工学教育に関す る調査研究と、中国大学関係者との技術交流について招聘状が届いた。

10月30日から、事口、舟渡、木全先生が同大学を訪問。 吉先生と旧交を温めると共に、南京市党書記長の林华萍貨教授とも交流を深めた。

その他北京市では、提携姉妹校、中国科学院声学研究所、無錫市では、国家高新技術開発区などを訪問・視察した。上海市では時速450km/hのリニアモーターカーを試乗と、社会基盤設備の視察を行った。



研究室の吉 伯海先生





## レーシングカート部

## 第9回全国大学カート連盟、全国学生対抗カート選手権で、 大同工大が、大学対抗部門で堂々優勝!!

8月16日と17日の2日間、三重県鈴鹿サーキット南コー スで、15大学と3専門学校が参加して開催された第9 回全国学生対抗カート選手権大会で、大同工大レー シングカート部が大学対抗部門で総合優勝を果たした。

PRDクラスでは、榊原康人(02M)が出走11台中 の5位、SSOクラスでは、伊藤邦彦(01M)が出走19 台中堂々1位、SSDクラスでは、田中康裕(02M)が出 走13台中第2位に入り、見事総合優勝に輝いた。

この大会の模様は、月刊JK(Japan Kart)10月号 と、週刊オートスポーツ9月16日号にそれぞれ写真入 で紹介された。





左から 伊藤邦彦君(01M), 古屋辰典君(04M), 榊原康人君(02M), 田中康裕君(02M)

_	ULT/大学刘钦郎門	104
1	大同工業大学	18.6
2	名古屋工業大学	10.0
2	愛知工業大学	10.6
4	東北大学	9.0
5	比治山大学+早福田大学	6.6
5	金沢工業大学	6.0



## ハンドボール部

## 東海学生秋季リーグで悔しい3位!(3期連続) インカレの出場権は獲得

DITハンドボール部は、この秋季リーグも期待されながら3位となった。

初戦、中京大を26 10で圧倒して幸先よいスタートを切り、続く愛知学院大、愛知教育大、愛知大を連破し、 前半の大一番、名城大戦に臨んだ。しかし2点先取するも流れに乗れず21 18の3点差で敗れ大事な一戦を 落とす。続く宿敵中部大との一戦には奮起したDITが後半終了3分前まで3点リードするも最後に追いつかれ、 21-21で惜しくも引き分けた。

今年の全日本インカレは沖縄で開催される。取りこぼしすることなく、本年度の有終の美を飾ってもらいたい。



### 学生会執行委員会の献血運動に、 愛知県知事から感謝状!

学生会執行委員会が毎年3回実施している献血キャンペー ンに対して、7月30日付けで、愛知県知事から感謝状が届いた。 学生はじめ教職員も積極的に参加している大同工大献血キャ ンペーンが、社会貢献していることの表れ。同執行委員会に は大きな励みとなった。



左 久保智寛君(04B),右谷 裕介君(02B)

# 中日新聞と合同で、 中部環境マップ作成事業展開! 東海・北陸地方の 小学生参加でNOx調査。

小学生の夏休み宿題の一環として、中部地方の環境を調査して環境マップを作成し、それを来年の愛地球博の中日共同館で展示しようという事業を、大同工大と同窓会、後援会が一体となって、中日新聞と共同で行った。

「夏休み前に調査員に応募し当選した小学生1000人にNOx測定キットを送る。小学生は夏休み中にキットで測定し、中日新聞へ送り返す。中日新聞で集計し、中部地区のNOxマップを作成し、それを大同工大の都市環境デザイン学科 嶋田喜昭先生と建築学科 光田恵先生が調査 結果について分析しコメントをつける」という約3ヶ月のイベント。調査員募集と環境マップ完成の2回、中日新聞に全面告知を掲載した。

第1回の調査員募集告知は7月5日の朝刊。掲載と同時に中日新聞社に応募が殺到。急遽当選者を450人増員して1450人としたものの、最終的には5000人を超える応募があった。反響の大きさはありがたかったが、多くの小学生に断りをしなければならないことが心苦しかった。

環境マップ完成の告知は、9月28日の朝刊。完成した中部環境マップに、嶋田、光田両先生の「都市部のほうが汚染されているようで、大気汚染は人間の社会生活と関係が深そう。 皆さんも環境問題を考えてください」とメッセージが掲載された。

更にこの事業は、「新聞広告の日」前日の中日新聞10月19日夕刊で、成功イベントとして紹介された。

この「中部環境マップ」は、中日新聞社ホームページで 公開されています。 http://www.chunichi.co.jp/kankyo-map/





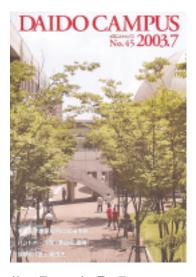
#### 50号記念特別企画 代表号でみるDITの発展



第23号から、題字の背景色で季節を表すデザインに。 左から1月(赤)、5月(緑)、7月(青)、10月(紫)



第36号(2001年5月18日) 大同学園創立60周年記念講演会に宇 宙飛行士、毛利衛氏講演



第45号(2003年7月25日) 表紙全体が写真となり、編集も大幅に 刷新した



ダイジェスト版(2004年3月) 各種広報用ツールとして、2003年度 のダイジェスト版を制作



第17号(1995年9月1日) 本号より、A4・8ページ建となる



第28号(1999年4月26日) 澤岡新学長就任がトップ記事



新入生特別号(2004年4月) 2004年度新入生用に、DITの活躍を 綴った新入生特別号を制作



第19号(1996年4月6日) トップ記事は、堀井新学長就任



第29号(1999年7月15日) 第29号:滝春キャンパス完成1年半前で、 新キャンパスバーチャル散歩



DAIDO CAMPUS

3.34

WHEN THE PROPERTY OF THE P

第34号(2000年10月25日) 滝春キャンパス紹介号。堀井前学長作のイラストが表紙を飾った

第48号(2004年4月27日) 学生諸君で賑わう表紙デザインを採用

### アメリカ短期留学





















今年のアメリカ短期留学は、8月9日名古屋空港を 出発、9月1日帰着まで24日間実施された。今年の団 長は、都市環境デザイン学科 嶋田喜昭先生。引率 は学務室の水野室長と、学園本部経営企画本部の鬼 頭室員。参加した学生は30名で、総勢33名。教養部 パワーズ先生にも現地で運営に参加してもらった。

オレゴン大学では、1日2時間の授業とパートナー 会話を3週間みっちりこなした。この間1泊2日のホー ムスティや、スポーツアクティビティや乗馬を体験す る小旅行も組み込んだ。フェアウェルパーティでは、 表敬訪問していた澤岡学長も参加して急遽ティパーティ も開かれ、オレゴン大学スタッフとの交流を深めた。

そのあとシアトル見学では、ボーイング社工場見 学やシアトルマリナーズの試合を観戦。劇的なイチロー の逆転満塁ホームランも目の当たりにするというラッ キーなおまけ付きだった。

団長を務めた嶋田先生は、「修了式がとても感動 的でした。遅刻、居眠リー切なし、学生たちは本当に 頑張りました。参加者は全員男子学生たちでしたが、 その所為か学生諸君が団結し学科を越えて友達を 増やしたことが素晴らしかったです」とうれしい感想 を語ってくれた。

## 大同工大とオレゴン大学提携25周年記念、 オレゴン州立大学提携20周年記念で澤岡学長、 両大学を表敬訪問。今後ますますの交流を誓う。

今年、大同工大とオレゴン大学・オレゴン州立大学との提携が、 それぞれ25周年、20周年を迎えたのを記念して、澤岡学長が8月 24日と25日、両大学を訪れ、一層交流を深めることを誓い合った。 8月24日はまずオレゴン州立大学へ。工学部長D·アダムス工 学部長と昼食を共にしながら、同大学の卒業生に宇宙飛行士が

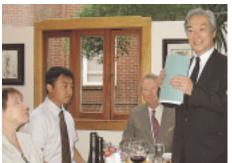
いることから、宇宙、無重力状態の話しで盛り上がる。

翌25日は、アメリカ短期留学で学生たちが滞在・勉強している オレゴン大学を訪問。勉強中の本学学生たちに学長が英語で激励、 学生たちも英語で答えた。ディナー・パーティでは、オレゴン大学 学長はじめ先方のスタッフと、大同工大澤岡学長、同行スタッフ、 それに教養部のパワーズ先生と長期留学中の江口陽子さん(01 C)が出席。盛会のうちに記念訪問を終えた。





オレゴン州立大学キャンパスで



25周年ディナーパーティーで



オレゴン大学アメリカ英語センター( AEI )で



オレゴン州立大学 Goran Jovanovic 工学部長(左から2人目)と

# の卒業生。



## 大学時代の約束「30歳になったら 柴田と二人で独立する!」を 実行した建築家。

取材当日台風23号襲来。 暴風雨をついて事務所を訪ねたら、 修羅場をくぐった建築マンの 穏やかな目があった。

# **ASO-OFFICE**

1982年工学部建設工学科建築学専攻(当時)卒業



## 大学卒業時に独立を誓い合った友と出会った!

大学3年生の時、柴田達志に出会った、というより初めて彼の存在を意識した。卒業するとき、「30になった ら一緒に独立しよう」と誓い合う仲になっていた。

就職した事務所は想像を絶する世界だった。即戦力のつもりが「紙屑」でしかなかった。図面は全て没とな り採用されることはなかった。悔し涙でトイレから出られない毎日が続いた。

2年で事務所を替わった。悔しさがバネになり次の事務所では誰よりも図面が上手かった。自分の活躍でき る場が一気に大きく増えていった。



1988年、30歳になって約束どおり柴田と二人で独立、建築事務所を持った。「アーキテクト・すてきな・オフィス」の頭文字をとって「ASO」と名づ けた。「いいデザインに囲まれていなければいいデザインはできない」と頑張った。すぐには仕事が来ず、二人で出し合った資金はすぐ底をついたが、 時代を見る眼は磨かれていった。

「建築図面は必ずパソコンで描く時代になる」と確信して、名古屋の業界で初めてMACを導入。「建築は未来図を描くもの。今売れるものばかり 作っていては命取りになる」、「お金は次のものにかける」、「お人が幸せになることが建物の使命」。これらのポリシーが次第に仕事を創っていった。

## 12年後、約束どおり発展的に別れた!

世紀の変わり目2000年、独立から12年経って二人は発展的に別々の事務所設立した。始めたときに終わりを決めていた当然の帰結だった。柴田 は社名をアーキテクト・スタイルに、自分は社名をASO・OFFICEとし、お互いがいい仕事をしようと競いあった。

現在、事務所には大同工大建築学科02年卒業の吉村友里がいる。「自分には先輩がいなかった。先輩がいたほうが何かと心強い」と思いやる。そ して「10年もしないうちに建築は確実に女性の時代となるから」と、彼女の目を養うため事務所の中には様々な作家の作品が並ぶ。

最後に、「新しい価値観の未来が見えるから、次の時代への希望があるから、苦境に身を置ける」という現役学生たちへのメッセージでインタビュー が終わった。(文中敬称略)

柴田達志氏は中山則和氏の建築学専攻の同級生。ABCテレビ朝日系の人気番組「大改造、劇的ビフォーアフター」の匠として2回テレビ出演。

## エピローグ

事務所では「中山則和・ 柴田達志建築展」が開 かれていた。見事なデザ インが並んでいた。









オープンキャンパス、 8月も10月も天候に恵まれ大盛況!!

台風が立て続けに日本列島を襲った今年、大同工大のオー プンキャンパスは好天に恵まれ、高校生たちが大勢訪れた。 本学のオープンキャンパスは、他大学のように「お祭り」 や「自由に見学」ではなく、高校生の志望に応じて、各学科 でミニ講義、ミニ実験、そして施設紹介など、本学で学ぶ醍 醐味を直に体験してもらうことで、自分の進路を理解・確 信することを主目的としている。

訪れた高校生たちは、自分の目指すコースのプログラ ムに参加して、将来のやりがいを見つけようと熱心に体験 していた。









## AO入試から 平成17年度入試スタート!

大同工大の入試は、8月20日からのAO入試から始まった。 猛暑の中、3日間に渡って講義、実習、実験にと、志願者の 能力を見極める入試が熱く展開された。

本学が誇る燃料電池、自動車、ロボット、電気、建築、都市 計画、情報ネットワーク・デザインについて、講義と実験、実 習にと息つく暇もない3日間だった。中にはキャンパスを 飛び出して名古屋市の堀川の水を直に調査したり、15秒 のテレビCMを制作したりと、ユニークな実習試験も行わ れた。合格発表は10月15日、平成17年度入学者の第1号が 決まった。











# トコトシ先生

澤岡学長、毎日新聞社主催、 「都市創造フォーラム・語らい座」で講演!

9月21日、毎日新聞社主催の「都市創造フォーラム・語らい座」で、 澤岡学長がゲストスピーカーとして、1時間の講演と毎日新聞社東 京本社科学環境部長、瀬川至朗氏とのトークセッションを務めた。

今回の「語らい座」は28回目で、テーマは「組織が引き起こす事 故と組織文化」。学長の著書「衝撃のスペースシャトル・コロンビ ア号の事故報告」を元に、組織文化を変えない限り事故はなくな らないというアメリカNASAの事故報告書の核心について、講演、 トークセッションで議論が深められた。この模様は、毎日新聞10月 25日の朝刊に大きく掲載された。









## 都市環境デザイン学科大東憲二教授、 セミナー、環境デー出展と大忙し!

9月14日、大東先生が会長を務める愛知土壌・地下水汚染対策研究会主催の 「土壌・地下水汚染対策セミナー」が、愛知芸術文化センターで開かれた。開 催挨拶に立った大東先生は、同研究会の設立目的、現在の活動内容、研究会活 動について報告。愛知の土壌・地下水汚染に関するコンサルタントとして総合 的に問題解決できる組織を目指すと決意を述べた。

その5日後の9月19日、名古 屋の久屋大通り公園で大々的 に開催された「環境デーなごや 2004」では、ブース展示に出展。 リサイクルフラワーポット工房、 名古屋の地盤環境と水環境の 実演で、訪れた人々がフラワー ポットづくりの体験、液状化現象 デモの見学や、ペットボトルキャッ プをリサイクルしたベンチのす わり心地を体験していた。



土壌・地下水汚染対策セミナー







環境デー・なごや2004ブース出店

## 建築学科 瀬尾 文彰教授、 名古屋の水路を生かした 街づくり提言を発表。

中日新聞で定期的に名古屋のまちづくりについて提言を している瀬尾先生が、8月29日の中日新聞で、「名古屋をべ ニスのように」との提言を発表した。

3本ある名古屋の水路を「街路」に使って、小船や水上バス で行き交い、水路に面した店に舟から入るという、ちょうど ベニスのような街づくりが可能だとしている。



## 知多市ふれあいプラザで 大同工大の先生大奮闘!





### ① 7月3日、情報学科 横山弥生助教授、 「PCびっくり画像秘伝講座」の講師担当

7月3日、パソコンを使ってあっと驚く映像作りを披露。参 加者はあまりのテクニックに感心しきりだった。





### ② 9月4日、情報機械システム工学科 西堀賢司教授のロボサッカーチーム 堂々のデモを披露!

おなじみロボサッカーチームの西堀先生と学生5名が、サッ カーロボットの実演を披露した。見事なループシュートに 集まった人々から歓声が上がった。

## ③ 9月19日、電気電子工学科 佐藤義久教授、 小学生と親御さんに発電について講演。

小学生以上の子どもと保護者対象の講演会に佐藤先生が講師として 参加。火力、水力、原子力などによる発電のしくみや、太陽電池や風力 を使った発電システムについてわかり易く解説。子供たちが目を輝か せていた。



## 建築学科 萩原 伸幸助教授、 CBCラジオに出演!

7月30日午後3時5分からのCBCラジオ防災対策キャンペーン番組『地震·防災Q&A』に、 萩原先生が、パーソナリティ・矢野きよ実さんとともに生出演した。

この番組は、地震や防災に関するクイズを先生がリスナーに電話で出題し解答・解説する 内容。萩原先生は、「ビルは高ければ高いほど地震に弱い」ということが正しいか間違いかと 出題し、正解が「NO」であるわけを易しく解説した。

## 電気電子工学科 佐藤 義久教授の、 「愛知万博シンポ」、読売新聞が取材!

読売新聞が連載している「みんなの地球博まであと222日」という特集記事で、来年万博会場でシ ンポジウムを開催する佐藤先生を取材した。

記事は8月15日の朝刊でカラー写真入りで掲載された。現在滝春キャンパスに設置してある都市 型風力発電機を更に三基増やし、そのデータを会場へインターネットで紹介する計画も紹介された。



# トコトシ先生

2004年度内藤科学技術振興財団の研究助成を受けた烏野 先生が、夏休みに約40日間にわたり、メキシコのU.A.G大学(グァ ダハラ自治大学)で、共同研究と講演を精力的に展開した。

8月11日には、過去16年間続けている植物の生体電位に関



する研究の集大成をメキシ コの先生方に講義。31日には、 「LabVIEW( ラブビュー) 電子計測と分析分野に於け るPCの応用」と題して講演 した。この間、現地スタッフと 共同研究のための、文献研究、 測定器選定のための調査、役 割分担など精力的に体制づ くりを進め、先生のメキシコ での研究体制を確立した。



#### 教員の新刊書発行相次ぐ! -

## 澤岡昭学長「衝撃のスペースシャトル事故調査報告」

2003年2月のスペースシャトル・コロンビア号事故報告書が、「NASAの組 織文化を変えない限り、再び惨劇が起こる」と断言した。本書で学長はNASA の長官が任命した事故調査委員会で、NASAそのものを否定するような報告 書を出したことの重さと意義を強調。日本の政府、企業にとって危機管理の教 科書となると指摘している。

本書出版は、9月6日の毎日新聞と10月4日の日刊工業新聞で紹介された。

#### 電気電子工学科

## 堀尾吉己教授、今年も大著 『新訂版・表面科学の基礎と応用』 出版に参加

今年も大著『新訂版・表面科学の基礎と応用』 出版に参加。

この大著は、日本表面科学会創立25周年記念 に同会が出版。先生は、第1編基礎編 第4章表面 分析法の第2節。電子回折分野で、電子線を用い て表面の原子構造・形態の組成分析・評価手法に ついて執筆した。



#### 情報学科

山本武信教授、『グローバルメディアの 世紀』『地球メディア社会』、

-気に2冊出版

旺盛な執筆活動を続ける山本武信先生 が、著作を一挙2冊出版した。23年の国際 ジャーナリスト経験を基に、『グローバル メディアの世紀』は、グローバルメディア 社会の深層に迫り、その可能性、危険性を 分析、展望。『地球メディア社会』は、21世 紀メディア社会の光と影のなかで地球市 民はどう生きるべきかを明らかにする。



#### 建築学科

## 佐藤達生教授、『ハギア・ソフィア 大聖堂学術調查報告書』出版!

日刊工業新聞

佐藤先生が副団長を務めるハギア・ソフィア大聖堂学術調査団(19 90年~2001年)の調査の成果が大著として出版された。西暦532年

に建造された同大聖堂は、教 会堂内の4本の柱に巨大ドー ムを架けるという画期的建築。 先生は編集者として本書を まとめ、第1、2、3、5章の構造 変形、細部調査の部分を執 筆している。



都市環境デザイン学科 情報学科

## 久保田稔教授と茂吉雅典講師、 『木曽川を語る 川と人の関係史』 を出版

久保田先生と茂吉先生が積極的に活動する木 曽川文化研究会が総力をあげてまとめた本書。今 まで河川工学重点の研究が捨ててきた、木曽川と 地域の関わりや環境に焦点を当て、木材と川、人々 と川のたたかい、電力開発などを掘り下げている。





今年の「親子ものづくり教室」は、夏休み最初の日曜日7月 17日、午前午後の2部に分けて、DIT創造製作センターとゴビ ホールで開催された。

参加は、小学校4年生から6年生までの生徒とその父母の ペア。Aコース「銅版をたたいて作るミニ置物」、Bコース「理 科実験、電気ふしぎオモチャを作ってみよう」、Cコース「本格 派!アルミで作るオリジナル置物」、Dコース「竹でつくるお 茶目なトンボがえる」の4コースに、46組の親子が参加した。

今年はNHK総合テレビが取材に訪れ、午前中の教室の模 様が12時10分からの定時ニュースの名古屋版で80秒ほど放 送された。そして午後の部には、そのテレビを見て飛び入り 参加した親子も見られた。









## 大同工大「アイ・ロボット」映画試写会挙行。 西堀賢司研究室のサッカーロボット実演で、観客喝采!

8月26日、大同工大主催の「アイ・ロボット」 映画試写会が、鶴舞の愛知県勤労会館で開催 された。

「アイ・ロボット」は、2046年のシカゴを舞台 に、ロボットと人間の心の交流を描き、この夏ヒッ トした映画。ロボットに因んで、映画上映前の イベントに、西堀賢司研究室のサッカーロボッ トが実演に参加、見事ループシュートを披露し て、観衆の喝采を浴びた。上映前のイベントと ヒット映画とで、印象的な映画試写会となった。







**中**東
(あじなみ)



大同工大の滝春キャンパスと白水キャンパスの間の道を 西へ約4分、「味波」はある。1階は椅子席と座敷、2回は座敷 の和食チェーン。ランチタイムの日替わりランチは600円と リーズナブル、この日はお造りと天ぷらにおしたしとご飯、味 噌汁だった。「あじな」味。これからの季節は釜飯定食が一 押しとなる。客層は広い。大学からやや遠いものの、本学の 教職員も必ず訪れる。

2階の座敷は、大同工大ハンドボール部員の昼食場所となっ ている。選手が三々五々集まってくる。凄い食欲を一手に引き受けている。「食の太い男は大成 する」という細木数子の言葉を思い出す。頑張れDITハンドボール部!「味波」さんよろしく!





## 週刊エコノミスト誌、大学特集で 本学をトップで紹介!

毎日新聞社発行の「週刊エコノミスト」7月20日号「選ばれる大学特集」で、 大同工大は就職ランキングで4位、そして就職希望者の就職100%を継続して いる背景をトップ記事で紹介した。

記事では、大学が生き残るために、単なる入学する学生確保だけでなく、就職 という学生の出口を強力にサポートすることが求められるようになっているな かで、本学の教職員と学生たちが全力をあげて取り組んでいる実情を先進的 取り組みとして紹介した。

そして同誌9月28日号でも、大同工大は全国就職ランキングで7位にランクさ れている。 右ページに取材に訪れた同誌金山記者の感想を掲載。



## 9月はじめの恒例企業説明会、 台風に負けじと盛大に開催!

昨年に比べ順調に進捗している本年度の就職戦線。それを一気に前進させ ようと、恒例9月の大同工大企業説明会が学生ホールで開催された。

当日は台風接近の荒れ模様の天候にもかかわらず、企業115社、学生100名 が参加。先生も学生の支援、企業との人脈形成に積極的に加わり、有意義な企 業説明会となった。



来年はじめて就職活動をする情報学部支援の 情報学部就職パンフレット制作!

来年は情報学部学生たちが就職活動をする年。本学にとって情報学部学生の就職は、重 要な意味を持つ。そこで新たな就職先企業を開拓するためのパンフレットを制作した。

狙いは、まず他大学が真似できないパンフレットにすること。そして企業にとって本学情 報学部学生たちがどういう教員達の指導でどういう勉強をして、どういうスキルを身につけ ているかを理解してもらう。そのために、4年生に就職活動ができる学生たち全員を、プロ のカメラマンが撮影した顔写真と一言メッセージ付きで掲載した。





ON ARTHAR

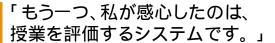
# 大同工大を取材して

毎日新聞社週刊エコノミスト編集部 会川 隆一記者

週刊エコノミスト7月20日号「選ばれる大学」特集で、大同工大の取材に訪れた毎日新聞 社週刊エコノミスト記者 金山隆一記者の「大同工大を取材して」と題した感想が編集部 に届いた。そのダイジェストをご本人了解のもと掲載した。

### 「大同工大の倫理観の高さに感銘を 受けました。」が金山記者の第一の感想。

名鉄大同町駅から大学に着くまでの数百メートルの間で、数人の 学生とすれ違いました。その間、歩きながらタバコを吸っている学 生が1人もいない。携帯電話で大声で話しをしたり、メールを打っ ている学生もいない。校内にはいると、タバコを吸う学生はいないし、 吸殻一つ落ちていない。授業の風景を窓からのぞくと、教室の後ろ の方で居眠りをしたり、漫画を読んでいる学生もいない。私が通っ ていた20年前の大学とは様変わりです。・・・



学生による教授の評価だけでなく、学生自身に聴講態度の自己 評価をさせると聞きました。さらには外部の第三者にも授業を公開 し、その評価を基に参観者と教授でディスカッションし、それを学内 報で公開する制度を取り入れていると聞きました。ここまで徹底し た情報公開を進めれば、やる気のない教授は大学には居られなくな るだろうと思いました。

### 「私の学生時代に見られなかった もう一つの傾向は、 充実した就職支援プログラムです。」

私の学生時代に見られなかったもう一つの傾向は、充実した就職 支援プログラムです。3年生の春から、就職ガイダンスや模擬試験 などが緻密に行われ、否応無く就職を意識せざるを得ないシステム となっており、さらにガイダンスに出席しない学生の保護者には電 話連絡が行くとのこと。後に他大学にも取材しましたが、こうした就 職支援は、多かれ少なかれ、日本全国の大学で導入しているようです。

### 「一方でここまで過保護にしていいものか どうかという印象も受けました。」 と問題提起も・・・

ここまで熱心にキャリア支援育成プログラムなどを実施してしまっ ては、学生が本来持っている自発性を損ねてしまうのではないか、 という危惧も感じました。(略)

与えられたシステムやプログラムに従順になるのではなく、たと えば、大学だって間違うことはある。システムそのものがおかしくな いかという疑問を持つ。それくらいの問題意識を学生には持っても らいたいと感じました。







## エピローグ

金山記者はジャーナリストらしく、最後は印象としての問題 提起で締めくくった。しかしこの問題提起は、本学が就職だけ でなく、日頃の授業やクラブ活動など学生生活の全てについて、 学生たちに自主的・自発的に取り組むよう指導していることと 軌を一にしている。記者の指摘を待つまでもなく、その成果 が期待されることに変わりはない。



## 平成16年度教育懇談会、 盛況裏に終了

DITの「教育重視」政策の重要な取り組み、教育懇談会が、今 年も9月23日の静岡支部(会場・浜松)を皮切りに、10月10日まで の間に、三重(松阪)、西日本(岡山)、岐阜(岐阜)、三河(豊橋)、 近畿(彦根)、北陸(金沢)、長野(松本)、尾張(名古屋)の9支部で、 合計425家族の御父母が参加し、有意義な個人懇談会となった。

今年は本学がマスコミに取り上げられることが多かったことや、 説明の間に学生生活や大学の1年を紹介するVTRも一新したこ とから、御父母たちは本学への認識を新たにされていた。

## 招聘研究者、 アセヴェス・サルバドール氏、 10年ぶりに本学訪問。 関係者達と旧交を温める!

1992年度にアメリカから1年間DITで研究を重ねた招聘研究者、アセヴェス・ サルバドール氏が、10年ぶりに本学を訪問した。当時一緒に研究を重ねた中 村肇先生や松浦章裕先生、そして職員たちと10年ぶりの再会を喜び合った。

サルバドール氏は、現在アメリカ・カリフォルニア州、カリフォルニア・ライブ モア大学の国立研究所で、移送プログラムのリーダーを務め、このたびの来日は、横浜で開催さ れたエネルギー会議出席にあわせ、会議終了後名古屋を訪れたもの。

下宿のフクが狭かったとか、うなぎ寿司が美味かったとか、ユニーが便利だったとか、ひとしき り思い出話に花を咲かせていた。

## 本学の新看板、金山総合駅と 名駅コンコースに設置

欧風のキャンパス写真をキービジュアルとして展開している 本学は、このほど新看板を設置した。金山総合駅では、名鉄改 札口すぐ東の壁面に、名駅では北側コンコースの柱に、それぞ

れ電飾看板を掲出、大学 案内等で好評のキャン パス写真を本学の顔と して当面打ち出す。 近所 を徘徊(?)される時は ぜひご覧ください。





#### 事

退職 / H16.6.30付

嘱託職員 松碕 真澄/大学事務部 入試室

採用 / H16.7.1付

専任事務職員 伊藤 幸生 / 大学事務部 産学連携共同研究センターリエゾンオフィス主任部員(次長待遇)

退職 / H16.8.31付

特任職員

甲川 忠男 / 大学事務部 産学連携共同研究センターリエゾンオフィス長(部長待遇)

異動 / H16.9.1付

専任事務職員 伊藤 幸生 / 大学事務部 産学連携共同研究センターリエゾンオフィス長(次長待遇)

採用 / H16.11.1付

専任教育職員 川戸 和英/情報学部 情報学科 教授

役職就任 / H16.11.1付

木全 博聖 授業開発センター副センター長(任期:H16.10.1~H17.9.30)

川戸 和英 社会交流エクステンションセンター副センター長(任期:H16.11.1~H17.9.30)



#### 編集後記

本号で、大同工大キャンパスはめでた く発刊50号を迎えました。これまでの49 号を見てみますと、改めて大同工業大学 の発展が手に取るように見えてきます。 大同工業大学が大いに発展することを 全教職員と後援会、同窓会で誓いたいと 思います。

巻頭特集でも紹介した通り、文部科学 省から「現代GP」に採択されたり、道路 交通法改正を前に機械工学科鈴木桂輔 先生の研究が新聞、テレビにかつてない ほど紹介されたりと、本学が社会から認 められたことは、本学全体を活性化する ことに他なりません。

一方、編集部では、本学と関係者の皆 様から幅広く掲載情報を募集しております。 「マスコミに載らなければ記事として取 り上げてもらえないのか」とのご指摘を いただきましたが、断じてそういう基準 を設けてはおりません。皆様が頑張って いる情報を本学全体の励みとなるよう大 いに掲載したいと考えております。まも なく卒研がピークを迎えます。研究室紹 介をぜひやりたいと思いますので、先生 方からの情報提供をお待ちしております。

情報をお寄せいただい た方には、もれなくDIT サポーターバッジを差 し上げます。



